

パブリックコメントの結果について

【意見募集の概要】

案件名	高山市文化財保存活用地域計画の策定について
募集期間	令和7年1月29日(水)～令和7年2月27日(木) (30日間)
担当部・課	教育委員会事務局 文化財課

【集計結果】

意見提出人数	1人
意見数	7件

【意見の検討結果】

項目	
① 修正します	意見に基づき、原案を修正するもの
② 意見として承ります	原案は修正しないが、今後の取組の参考とするもの
③ 原案のとおりとします	検討した結果、修正しないもの
④ その他	原案に関する意見でないもの(感想や質問)に回答するもの

【意見及び検討結果等の一覧】

No.	項目	意見(概要)	検討結果及びその理由
1	■基本目標	素案では「歴史遺産や伝統文化」が目標となっており、日本語として適切でない。目標はこの場合、「知り、守り伝え、活かす」ことなので、倒置形にしたいのであれば、「知り、守り伝え、活かそう 飛騨高山の～」にしたほうがよい。	③原案のとおりとします 基本目標については「知り、守り伝え、活かす」ことを強調するよう、倒置形としております。また保存活用に関わる多様な主体が、各々が自ら主体的に行うこととして取り組むことを表すため、この表現としていますので、原案のとおりでご理解をお願いします。
2	関連文化財群 1 城下町の町人文化	・屋台組を基礎としたコミュニティ →コミュニティの基礎になっているのは「町組」である。したがって、屋台組を町組に置き換えるのが適切である。	③原案のとおりとします 近世の「町組」は屋台組のルーツとなるものですが、現在の町並み保存活動や屋台行事などの地域活動の基礎は屋台組であるため、「屋台組を基礎としたコミュニティ」の表現は原案のままとします。
3	関連文化財群 1 城下町の町人文化	・「今に生きる町人文化」は、城下町時代というよりは江戸中後期の高山町に淵源をもつのではないか。対象として想定されている町並みや祭屋台などは、まさに江戸後期以降に形成されてきた文化の所産なのではないか？ ・「城下町高山の町人文化」とは何を指し示すのだろうか？元禄8年に高山城は破却されており、それ以降の高山町を「城下町」と規定することは学術的にも正しくないのではないか。 ・「城下町」にこだわる理由は何か？例えば、「城下町高山」を「近世高山町」に置き換えてはどうだろうか？	②意見として承ります 本関連文化財群は、町並みと町人文化の大きく2つで構成されています。町並みは金森氏の城下町を基礎としており、その継承と変化が積み重なって成り立っていますので、本計画では「城下町」を用いています。ただし、ご意見のとおり高山城破却後に商家町としてさらに発展した経緯もあるため、計画本文では必要に応じて「旧城下町」と記載します。 また、町人文化の中には高山が城下町であった時代を端緒とするものもあり、そこから継承されてきたものが高山の文化であるため、ここでも「城下町」を用いています。

No.	項目	意見(概要)	検討結果及びその理由
4	関連文化財群 3 飛騨国誕生 の物語	<ul style="list-style-type: none"> このタイトルにすると、飛騨国立国(りっこく)の過程が対象となっているかのような誤解を与えるのではないか？ →代替案「古代飛騨を物語る遺跡と国の成り立ち」 	<p>①修正します</p> <p>立国の過程だけが対象ではなく、飛騨国の概念が生まれるまでの遺跡や、飛騨国が成立してからの遺跡も含んでいるため、「古代の飛騨国とその成り立ち」と修正します。</p>
5	関連文化財群 5 中世の山城	<ul style="list-style-type: none"> 高山城は近世城郭であり、かつ山城ではないので、高山城跡を構成文化財とする場合、「中世の山城」と副題に銘打つのは適切でない。 →代替案「中近世の城館」 領主の拠点について取り上げる場合、戦時の拠点となる山城のみを検討するのでは不十分であり、平時の拠点となった山麓の居館などの生活空間についても明らかにしていく必要がある。現状では史跡として山城が注目され、国史跡指定をめざす取り組みも進んでいるが、いずれは山麓など平地に位置する領主居館の調査研究も進めて頂きたい、その点を鑑みても「中世の山城」より「中近世の城館」のほうが妥当だと考える。 	<p>①修正します</p> <p>本関連文化財群を構成する文化財は「中世の山城」に限るものではなく、関連する文化財を広くとらえ、保存と活用を図る上からも、ご意見のとおり「中近世の城館」と修正します。</p>
6	関連文化財群	<ul style="list-style-type: none"> 関連文化財群全体としては、日本遺産のストーリーも取り込み、歴史文化基本構想の関連文化財群よりも対象とする文化財について地域的にも広がりを見せている点については評価したい。 8つのストーリーのうち5つで「山」の付く言葉がキーワードになっている。相互の内容的な重複はあっても仕方ないが、印象としては「山」関連が多いかなと感じる。 	<p>③原案のとおりとします</p> <p>山林資源と飛騨匠の関りなど、市域の多くを山林が占めていることが、本市の歴史や文化に大きく影響していることより、多くのストーリーで「山」をキーワードとしています。</p>
7	関連文化財群	<ul style="list-style-type: none"> 1と8は祭礼という点で重複がある。従前の歴史文化基本構想では、町場の文化が農村部に伝播するというストーリーが設定されていたが、文化伝播の方向性は一方向ではないし、高山の町家建築のルーツは農村部にありとの見解もある。つまり、高山祭の屋台行列の淵源についても同様の指摘がある。 難しいかもしれないが、歴史文化基本構想の時に示されたようなストーリー間の関係性が図示されると理解しやすくなるのではないかと。 	<p>②意見として承ります</p> <p>祭礼という点では、関連文化財群1では高山祭のみを取り上げており、関連文化財群8では高山祭も含むものの、それ以外の農村部などの祭礼を主に取り上げています。8つの各ストーリーは、時間や空間を介して複雑に影響しあっているものであり、それらの関係性を正確に図示することは困難ですが、概ねの関係性を図示することを予定しています。</p>